

# 「絵本」で新聞のススメ

## 読み方、活用法まとめ

ページを一枚めぐると、左には文章、右には大きなイラストや図。本は全十一章で構成され、新聞に関する基本的な情報が盛り込まれている。

たとえば第一章。「一面は新聞の顔」と題し、左ページには政治面や社会面などさまざまな紙面があることを説明した。右ページには新聞の一面をそのまま

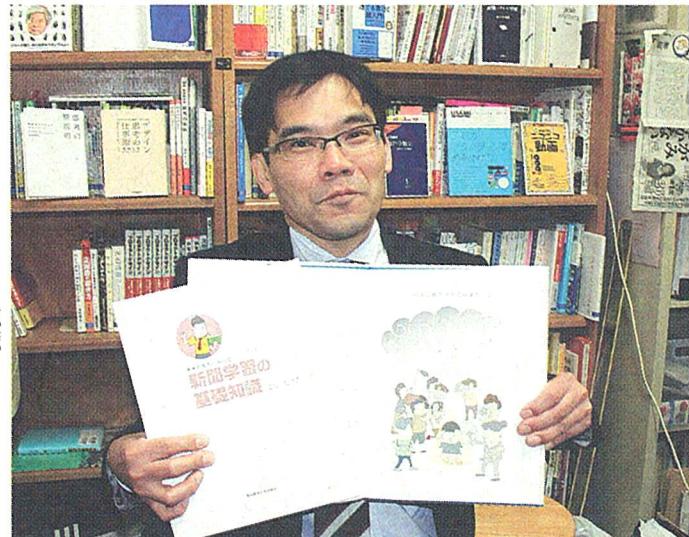
富山祥瑞教授が手がけた絵本仕立ての本「新聞学習の基礎知識」=愛知県刈谷市の愛知教育大で

掲載。題字や見出し、トップ記事などがどんな意味を持つのか、具体的に書いてある。出版のきっかけは、学生の新聞離れだった。愛知教育大では、二〇〇六年から中日新聞と連携してNIEの講座を開いている。富山教授も開講当時から



新聞の読み方や活用方法をまとめた本「新聞学習の基礎知識」が今春、完成した。絵本仕立てにして親しみやすさを表現。執筆した愛知教育大(愛知県刈谷市)の富山祥瑞教授は「新聞を読んでない学生が、新聞を身近に感じじるきっかけになれば」と期待する。

### 愛知教育大・富山教授が執筆



## 生きた教材で問題解決力を

同大では、多くの学生が教職に就く。大学のNIE講座では、学校でNIEの推進役を担う教師の養成を目指している。しかし、新聞を読まない学生が、教師になつて急に読むようになるとは考えにくい。そこで、今回の本の出版を企画した。

柳田大慈記者も執筆は、静岡県浜松市船越小学校の山崎章成教諭、中日新聞写真部の柳田大慈記者も担当した。「授業の進み具合と違つので、新聞は生きた教材とも言える。富山教授は「新聞を活用した学習では着眼力や取材力、情報を読み解く力などが得られる。これは生活していく上で必要な問題解き力そのもの」と話す。

学校現場では、新聞は「生きた教材」とも言える。富山教授は「新聞を活用した学習では着眼力や取材力、情報を読み解く力などが得られる。これは生活していく上で必要な問題解き力そのもの」と話す。



田記者は「三歩前に出て撮る」という撮影のポイント、プライバシーや肖像権の問題などを説明している。本は二十四ページ、A4判変型。千九百円。イラストは、同大卒業生の細井英雄さん。問い合わせは、愛知教育大生協=電0566(36)2404へ。